

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英語教育法 English Teaching Method		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭2種(英語)))	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
岡村 京子	非常勤講師室	火曜日授業後(14:30~15:20)		授業中に指示します
授業の概要				
将来教職に就いた際に必要な英語教育の目標や指導内容・方法についての知識を得るとともに、模擬授業を通して実践的な力を身につける。				
授業の目標				
①主に中学校英語教員に必要な基本的な知識を理解することができる。 ②英語の四技能の指導方法を理解することができる。 ③次年度の教育実習に向けて、授業を構成・指導案を作成し、実際に行うことができる。				
授業の方法				
前半は英語教育に関する基本的な理論と方法を学び、その後はより実践的な指導案作成の方法や授業の組み立て方などを学ぶ。授業形式は、講義だけでなく、生徒による発表とディスカッションを通して知識を受け身で学ぶのではなく、自ら興味関心のあるトピックを選び、調べて、発表する。それらをもとに模擬授業の指導案作成・実践・分析を行う。				
学習の成果(学習成果)				
①英語に関して学習者としてだけでなく、指導側の教員としての視点を持つことができる。 ②指導側の視点を知ることにより、学習者としての自分も高めることができる。 ②英語教師となる将来に備え、学習者としての自分と教師としての自分という複数の視点を持つことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション(今後の授業の進め方の説明)			
第2回目	英語教育の基本問題			
第3回目	英語指導の原理・教授法(1)			
第4回目	英語指導の原理・教授法(2)			
第5回目	英語スキルの習得と指導(1)			
第6回目	英語スキルの習得と指導(2)			

第7回目	英語スキルの習得と指導 (3)
第8回目	英語スキルの習得と指導 (4)
第9回目	テストと評価
第10回目	ティームティーチング・これからの英語教育
第11回目	授業指導案作成・授業分析方法の解説 (1)
第12回目	授業指導案作成・授業分析方法の解説 (2)
第13回目	模擬授業と授業分析 (1)
第14回目	模擬授業と授業分析 (2)
第15回目	レポート作成と解説・まとめ
事前・事後学習	講義のポイントを復習すること。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	①授業前にテキストや与えられた資料を読み、自分の考えをまとめ、積極的に授業に参加する。 ②出席状況
レポート	30%	授業で学んだことをもとに、英語教師としての心構え、指導目標、指導方法、授業展開の仕方に関して自分の考えを述べることができる。(詳細は授業初回に説明)
調査報告書		
小テスト	10%	授業内容に関する確認テスト (詳細は授業初回に説明)
試験		
発表内容 (態度含む)	30%	①授業を組み立て、指導案の作成ができる。 ②模擬授業を行うことができる。 ③自己評価と他者へのフィードバックをし、積極的にディスカッションに参加することができる。
その他		

教科書と参考図書

土屋澄男 (編) (2011) 『新編英語科教育法入門』 研究社
その他の資料は、授業内で適宜配布。

履修上の留意点・ルール

積極的に授業に参加すること。また授業で理解できないことやその他不明な点は資料や図書館、教員のオフィスアワーなどを使って、不明なままで持ち越さないようにすること。